

○議長（井上光三君）

続いて、通告2番 2番樋口正訓君の一般質問を行います。2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

2番、樋口正訓です。令和になりまして、初めての定例会ということで、一般質問を緊張感を持って望みたいと思います。

早速ですが、今回は大きく分けて2つの質問を行いたいと思います。初めに、定住人口を拡大への取り組みということです。現在、日本では、少子化と高齢化が同時に住み、状況が非常に深刻といえます。2006年の人口をピークに、全国のほとんどの自治体が人口減となり、特に若者の数が減り、高齢者の割合が一段と高まっております。各市町村の活力も徐々にではありますが、減退していくことが避けられない状況です。

本町においても、やはり減少傾向にあり、令和元年5月1日現在1万5,955人で、昨年同時期と比較すると222人の減であると聞いております。人口のもたらす影響は非常に大きく、地域経済やコミュニティをどのように維持していくのか。また、継続的な自治体経営が問われております。

こうした中、各自治体では、定住人口の拡大に向けた取り組みを推進しております。地域の特性に応じた定住政策を展開しております。さて、そこで最初の質問です。暮らしと自然が輝く交流のまちづくりを掲げる本町におきまして、地域の産業や自然環境など特色を生かした、また、町内に点在する観光資源なども融合させた施策で積極的に地域に人を呼び込み、観光やイベントなどを通じての交流で活性化を図りたいと私は考えますが、町はどのようなお考えでしょうか。

○議長（井上光三君）

産業振興課長 依田正紀君。

○産業振興課長（依田正紀君）

ただいまの地域の特色を活かした観光振興策についての質問にお答えします。町では、自然環境をはじめとする、特色ある地域資源を活用した観光振興が必要であると考え、町内三筋と交流拠点を結ぶ観光周遊ルートの開発や、町の魅力のPR強化を行なって参りました。

現在、昨年度まで実施しておりました「誇れるもの、何これなもの」募集事業で選定した作品と、町内三筋の自然散策や交流体験などの観光資源を紹介した、散策マップの作成を計画しております。

また、毎年秋に実施しております「ゆずの里絶景 ラン&ウォーク大会」では、地域の皆さまのご協力による、地域の特色を生かしたエイドステーションでの運営など、参加者へのさまざまな「おもてなし」により、町の魅力を発信しております。

イベント展開においては、春に開催する大法師さくら祭りなど、イベントを開催する季節に応じた町の魅力を発信しております。

今後、中部横断自動車道の全線開通により、東海・中京圏や上信越地方からの利用者の増加が見込まれることから、富士川町に立ち寄っていただくため、新たな観光資源を掘り起こすとともに、既存資源の連携と、地域全体でのおもてなしの心で、魅力ある観光事業を企画・提案及び発信し、今以上に交流人口を増やすことで、定住人口の増加に繋がるものと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

まず、お答えの中から、地域の特色を生かした観光資源の開発や季節に応じた祭りやイベントの開催、また平林穂積、大柳川溪谷の観光ルートの整備などの観光資源、また観光産業をより一層推進させていただきたいと思います。また、先日産業振興課に伺ったわけですが、産業振興課では職員各自の名刺にQRコード張りつけてありました。その内容を尋ねますと町の観光スポットのPR動画が配信されているとのことでした。私も課長に見せていただきましたが、非常に内容も濃くてさすがに産業振興課だなと。素晴らしいアイデアだと思いました。

ぜひ、この機会に職員の名刺にも活用していただき、魅力ある富士川を全国にまた世界に発信していただきたいと提案をいたします。議会でもまた活用し、積極的に観光宣伝もお手伝いができるかなとも思っております。

そこで質問ですが、これもお答えの中から、町内外から多くの参加者におもてなしの心を大切に開催されているというイベントの、ゆずの里絶景ラン&ウォーク、これの開催状況等を教えていただければと思います。

○議長（井上光三君）

産業振興課長 依田正紀君。

○産業振興課長（依田正紀君）

ただいまのご質問にお答えします。ゆずの里絶景ラン&ウォーク大会については、平成26年度に第1回大会を開催し、281名の参加をいただいてから参加者も順調に増え、昨年度の第5回大会では約1.7倍の469名の参加をいただき、大変好評をいただいているところでございます。またリピーターも毎年増えているところでございます。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

続きまして、2項目の質問に入らせていただきます。町では、待望の中部横断道が全線開通すると、静岡長野の物流の中継点でもあり、道の駅富士川を中心に活性が期待をされます。そこで、さらに戦略的な情報を発信して、観光や観光産業を柱に例えば、いきいきスポーツ公園を活用したスポーツイベント、または、交流都市の関係にある町田市との交流、さらに模索・検討しているという友好都市との真の友好都市との交流にも大きく期待をするところです。私たち議会も行政視察など、積極的に受け入れて、交流人口から定住人口の増加を図りたいと思いますが、町の考えを伺います。

○議長（井上光三君）

政策秘書課長 秋山佳史君。

○政策秘書課長（秋山佳史君）

ただいまの樋口議員の定住人口増加を目指す施策についてのご質問にお答えします。県内外から訪れる観光客などの交流人口を定住人口の増加につなげるためには、町の自然環境の魅力や各種支援制度を周知することにより、住みやすさをPRし、移住者の増加につなげていく必要があるものと考えております。

このことから、本町では、平成27年度に作成した富士川町移住プロモーション動画や移住・

定住促進パンフレットを活用し、各種イベントや県主催の移住セミナーにおきまして、町の魅力や支援制度についてPRし、県内外からの移住・定住の促進に努めているところであります。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

分かりました、私も定住人口の一環として、他の自治体との交流をより一層進めることも重要であると考えております。そこで再質問です。この町の良さをPRをして、しっかりとした交流を深めることにより、本庁への来訪者も増加や地域の振興、また、観光振興にもつながると期待しております。定住人口の増加につなげるためのひとつの施策として、自治体間の交流に対する考えを今一度伺います。

○議長（井上光三君）

政策秘書課長 秋山佳史君。

○政策秘書課長（秋山佳史君）

ただいまのご質問にお答えをいたします。観光や教育文化スポーツ等、多方面にわたった、自治会、自治体間の交流を深めますことは本町にとりましてもメリットがあるものと考えております。現在、他の自治体との交流を促進するため、友好交流自治体の制定に向けまして検討を進めているところであります。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

分かりました。それでは、再質問ですが、富士川町の三筋の地区には、県内外から多くの芸術家や作家の皆さん、また、職人さんが定住をされ作品などを通じて、すでに富士川町の宣伝をしていただいています。私はこのような方々との交流する機会を推進し、さらなる移住・定住者の増加につなげていくことも良いのではないかと考えますが、町の考えを聞かせてください。

○議長（井上光三君）

政策秘書課長 秋山佳史君。

○政策秘書課長（秋山佳史君）

ただいまの質問にお答えします。近年、三筋を中心に移住者の増加傾向が見られております。こうした移住者との交流を深めまして、県内外からの移住、情報の発信に結び付けることも移住者増加策のひとつであると考えております。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

今後とも、ぜひその関係を重視してもらって推進させていただくようによろしく願いいたします。

3項目目の質問に入ります。町内在住者へのサポートや情報の提供、失礼しました。町内移住者です。町内移住者へのサポートや情報の提供、または、これから富士川町への移住を検討されている方などへの相談窓口など、町としての支援対策の現状を伺います。

○議長（井上光三君）

政策秘書課長 秋山佳史君。

○政策秘書課長（秋山佳史君）

ただいまの移住者への支援対策につきましてのご質問にお答えをいたします。町内移住者への支援対策といたしましては、平成25年9月に空き家バンク制度を創設し、平成26年10月には空き家バンク制度に登録した物件への空き家改修費補助金制度をはじめ、中山間地域等における住宅用地取得費補助金交付制度や定住奨励金補助制度を創設するなど、移住者への各種支援策を講じ、定住促進に努めているところであります。

また、子育て世帯への支援として、平成27年4月に小中学校給食費補助制度を創設、10月には子ども医療費助成制度を15歳から18歳までに拡大、平成28年1月から病後児保育を開始、平成29年4月から出産祝金の支給を開始し、安心して定住できる環境づくりに努めているところであります。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

今後ともよろしくお願ひいたします。今は、全国のほとんどの自治体が人口減少の中、人口が減少しても、人と人がふれあう機会を増やすことで、また、文化は維持できるのではないかと思います。本町だけでなく近隣の市町村との連携や交流も検討して、まずは地域の産業・特色を生かした観光振興策で、交流人口の拡大と活性化を図っていただきたいと思います。富士川町に生まれてよかった、富士川町に住んで良かった、富士川町に越してきて良かったと思えるような、暮らしと自然が輝く交流のまちづくりのために、私はこれからも提案をさせていただく所存であります。

続いて次の質問に入ります。2つ目ですが、防災、地域の防災対策についてです。平成30年度の富士川町地域防災計画の中に、一般災害と地震災害編があります。いつ発生してもおかしくないと言われている東海地震発生についての対策を考えると、1995年1月に発生した阪神淡路大震災をも上回る甚大な被害が想定されています。このような大規模な災害に対応するために、町は防災会議を組織して地域の防災への意識を高めると同時に、町を挙げて防災力の向上を図っているところです。今後においても町や議会にも消防団、また自主防災組織、各種団体などの活動を支援し、防災、減災に強い町づくりを進めていきたいと考えております。

そこで、最初の質問ですが、災害発生時及び災害発生後において、消防団や自主防災会がもちろんのこと、地域の自主防災の活動の中心となる防災リーダーの存在が必要不可欠であると考えますが、地域防災リーダーの養成講座の開催や、また、地域の実情にも詳しい家庭婦人を対象にした女性防災講座などの開催も効果的ではないかと考えます。いかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

防災交通課長 長澤康君。

○防災交通課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。これまで町は、単独で防災リーダー養成講座等は行っておりませんが、山梨県が主催する「峡南地域防災リーダー養成講座」や「甲斐の国・防災リーダー養成講座」の内容を区長会で説明し、地域のリーダーとなる方々の参加を要請してきたところであります。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問です。必要に応じては、より防災意識の向上や防災力を高めるためには、町が進んで各地域へ積極的に向いて出前的な講座の開催も必要ではないでしょうか。

○議長（井上光三君）

防災交通課長 長澤康君。

○防災交通課長（長澤康君）

ただいまのご質問に答えします。地区及び団体等から、防災に関する出前講座の希望があった場合、職員を出向かせての出前講座の開催はもちろんのこと、山梨県の出前講座や、気象庁の行っている出前講座などを活用して開催して参りたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

よろしく願いいたします。

続いて2項目目の質問に入りますが、避難場所の状況についてです。災害の危険が切迫した緊急時において、被災者の安全が確保された避難生活を送る避難所の数、規模、救護又は災害ボランティア等の緊急時の体制の詳細を伺います。

○議長（井上光三君）

防災交通課長 長澤康君。

○防災交通課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。町が指定している避難所は指定避難地が110カ所、指定避難所が81カ所で合計191カ所となっております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問です。避難場所において使用する主な防災用の備品または食料や飲料水などの備蓄状況を伺いたい。

○議長（井上光三君）

防災交通課長 長澤康君。

○防災交通課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。町では備蓄しているものにつきましては、毛布、ビニールシートや災害用簡易トイレなどを備蓄しております。また食料につきましては、現在、2万1,600食。飲料水につきましては2リットルのペットボトルで7,200本備蓄してるところでございます。以上です。

○議長（井上光三君）

2番 樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

分かりました。近年では、異常気象のためか大雨、また台風災害や地震が多くいざというきのために、私たちが普段できることは自分の住んでいる地域を自分たち自らが知って、日ごろから危険な場所または設備、避難経路などの確認をしておきたいと改めて感じております。町ぐるみ地域ぐるみで、防災組織の意識の向上を図り、人や物の備えを怠ることなく、明日の

笑顔のために、今まで以上に、防災力の向上を図り、災害、減災に強い町づくりを目指したい
と思います。以上で私の一般質問を終わります。

○議長（井上光三君）

以上で、通告２番 ２番 樋口正訓君の一般質問を終わります。ここで暫時休憩します。

休憩 午前 １０時０３分

再開 午前 １０時１１分